
ポケットモンスターBW <暁の天空>

リュミエール

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポケットモンスターBW <暁の天空>

【Nコード】

N9402Z

【作者名】

リュミエール

【あらすじ】

私、ポケモンの言葉がわかるという特技を持つシユヴァルツ・セレンは幼馴染たちと一緒に旅にできました（それに至るまでが大騒ぎだったけど）！そしたら、え？いきなり『ポケモンの解放』？ていうか何故見知らぬ人にバトルを挑まれにやあなんのだ！！いやでも、あの人かつこよかつたなあ……そんな感じの、私の初恋のお話です。よかつたらどーぞ〜

prolog ～序章～（前書き）

オリ「はいっ、読者のみなさんに礼!!」

全員「……」よろしくおねがいします!」「」「」

オリ（カンペでたよ、チエレン）

チエレン「僕から!?……お話がアルンデスガ、」

他（片ことになってるし……）

チエレン「えー、自己満足だそうです!あとポケモンの世界観捏造してます、多分!!」

ベル「はい、ベルです!えっと、亀になりたいって言ってました!」

オリ「いやいやいやその言い方は色んな誤解を招くよベル!!」

!それはだめだ!!……ア!!すっ、すみません……私はシュヴァルツ・セレンです……省略していうんです……」

トウヤ「……ま、いつか。おれはトウヤ、皆さま周知の通りのイケメンだ!」

ぼぐつと殴打音

トウコ「あんたはだまってろトーヤ!ハイ、私はトウコ!よろしくね!」

トウヤ「いたた……」

セレン「ほいほい落ち着いて。ていうか自己紹介だったっけここ?」

チエレン「いや……」

ベル「あはは……」

セレン「まったく、トウコとトウヤはいつつも元気だなあ……んじゃ、行くよ!」

全員「それでは開幕……!!」

prolog 〈序章〉

それは、とても幸せな夢。

全部の重いものは後ろに捨ててきてて、
きれいな夜空の下で。

好きな人と一緒に、黙って月を見上げてた。

別に相思相愛ってわけじゃないけど、その時の私は、
一緒にいるだけで幸せだった。

そう、一緒にいるだけでよかった。

《……珍しく消極的自分!!むっちゃおいしい場面やん!!
!アピールや!!勢いで告白や!!!そんでもって、キ……きゃー
!!!!》

頭の中にあらわれた自分が黄色い声をあげて、私は

「いい雰囲気ぶち壊しにすなやアアアアア!!!!!!」
と絶叫した……

「お前頭大丈夫か？」

トウヤがくどくどと言う。

「うるさい……てかまだ根に持ってるの？あれはお互い様じゃん！」
私は言い返す。

ついさつき、私たち（トウコ・トウヤ・セレン）の家にポケモンが
届いたと、トウヤが教えにお昼寝中の私のところに来たのだが、そ

したら私が『すなやアアアアア！！！』とか叫んで、枕を部屋に入ってきたトウヤにぶつけたのだ。…と、きいた。

「はあ！？オレはわざわざお前に教えてやろうと思ったのに、なんだぞそれ！」

「別に教えなくたってわかったじゃない！！」

言い合いが始まりかけたが、

「…二人ともいい加減にしなよ。トウコがベル連れてきたみたいだよ。」

冷静なチェレンの一言がそれを止めた。

今三人はトウヤの部屋にいる。

今日はポケモンをもらい、私 セレンと、トウヤ、トウコ、チェレン、ベルが旅立つ日。

今はみんな普段着だけど、ポケモンを受け取ったら着替えるわよ、とかトウコが言ってたなあ……

目の前には手紙と（めっちゃ厚さがある）プレゼントボックスがある。「……おそ」「おまたせえ〜！！」「……タイミングが……」ちようどやってきた二人に、チェレンはため息をついた。

「まあ、とりあえずみんなそろったから、手紙読むよ〜！」

私は手紙を手にとって言った。

皆が何故か正座する。

「じゃあ読むね、……」

…セレン、トウコ、トウヤ、チェレン、ベル。これから、あなた達五人を見込んで、大事な大事なポケモンをプレゼントします。

プレゼントボックスの中には、『ポカブ』『ツタージャ』『ミジユマル』という三匹のポケモンたちを二組入れてあります。

旅のパートナーとなるポケモンを選んだ、その瞬間から、あなただけの旅物語が始まります。

この旅であなたは数多くのポケモンや、いろんな考えの人と出会い、触れ合うでしょう！

その様々な出会いから、あなただけの、大切なものをぜひみつけて

ほしい……

そう！たぐさんの人々やポケモンと触れ合い自分自身を成長させる
それがこの冒険のもっとも大きな目的です。

…きみときみのともだちとで仲良く選んでね…それではよろしく！

アララギ ……だつてさ。」

読み終わって顔を上げると、みんながみんな個性的な表情をしてい
た。

トウコはうずうずした期待いっぱい顔だし、

トウヤはぼへつとした顔、

チエレンは緊張してるみたいだし、

ベルはわくわくした笑みをうかべてる。

私は……『もうこれからの冒険が楽しみ』な感じのトウコと似た感
じかな。

「じゃあ早く開けよ！！開けよ！！」

「オレが開ける！！」

トウヤがプレゼントボックスを開ける。

「おお！！あれ、なんだこの紙？」

トウヤがもう一枚あったらしい手紙を読み上げる。

……ああ、あなた達は五人なので、一匹余ると思います。ちゃん
と返しにきてくださいね！ではでは。

「……」

それは…いや、初めから五匹にしとけよ…

皆の胸を色んなものが駆け抜けた。

「…も、モンスターボールからだして決めない？」

「そ、そうだね。」トウコとチエレンが言う。

トウヤが次々モンスターボールを投げ渡し、みんなはそれぞれポケ
モンを出した。

「あ、かわいい！！」「うわあ…」「どいつにしよう？」「あ、ふ
わふわだ！」

私がぼけつとながめっていると、ミジュマルがやってきて膝に座り込

んで言った。

【キミは選ばないの？】

「え〜…だって決めてないんだもん…」
応えると、驚いたようにこつちを見る。

【キミ、言葉がつづじるんだ…ねえ、決めてないんだったら僕にしない？】

「……………いいよ！」

しばらく考えて言う。

みんなももう決めたようだ。

トウヤはポカブ、トウコはミジユマル、チェレンとベルはツタージヤかあ…

てことは、一匹ポカブだけ残ってるのか。

真っ白になっているポカブ。

今のうちボールに戻しておこうとチェレンがモンスターボールを向けた瞬間、ポカブはダツと走りだして、開いたドアの隙間から逃げ出してしまった。

「……………ああああー……………！！！！……………」

なんで始まりが平和的じゃないんだあ！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9402z/>

ポケットモンスターBW < 暁の天空 >

2011年12月29日14時46分発行